

句集

鳥への進化

泉田秋硯



一の字の並ぶ切符や初詣

焼玉のぼんぼこ景気漁始

葉牡丹を平手で撫でておめでたう

慎みて天中殺の三ヶ日

来し方を白に変へたる忘れ雪

花の馱出て方言にギヤチエンジ

頭揉むエステヤ桃が活けてある

をみな等の人魚坐りや花筵

緊張の檣頭礼や遠ざくら

鱒^{あじ}刺^{さし}のダイブや海でよかったね

焼酎に成佛まむしとぐる巻く

雲の峯全部捕へて網を引く

そのみがぎんぎら夏のライヴショー

機関銃君は射てるか敗戦忌

風といふ風狂はせて秋ざくら

海流を濃くして秋刀魚南下軍

猫じゃらし仔猫あやすに丁度いい

腹時計だけは忘れず大花野

コスモスを眺めて義理の参観日

鳩とても悲しきときは潜るなり

シクラメンすらりと伸びてミレニウム

宙といふ風より上のただブルー

読初に四の五の言はずオデッセイ

首吊りし弁慶風を引きおろす

冬薔薇一輪シエフに選ばれし

白無限砕氷船が海を曳く

入学後すぐ大将と渾あだな名つく

勝負師のポーカーフェイス桜咲く

花に酔ふ男はみんな甲斐性なし

浮気蝶望遠鏡を逸れたがる

人影のなき臙より呼ばれたる

螢鳥賊夜はまぼろしを演じけり

飛あ魚こ翔けて鳥への進化志す

蛇死して見事に縄と化しゐたり

蟻地獄シニアグラスを取り出して

実弾とおもふ衝撃
金こ亀ねむ虫し

地中海色のあぢさゐ最盛期

秋天下大虐殺のじゃこを干す

島浮けり満艦飾の蜜柑被て

朝彌撒のボーイソプラノ小鳥呼ぶ

出鱈目な自作替へ唄花野行き

望楼のをみなは卑弥呼鳥渡る

流星群見て黎明の石と化する

句集 鳥への進化

著 者 泉田秋硯

発行者 小島哲夫

2003 年 3 月 3 日 初版